

## 震度計26か所「不適切」

## 八丈島「震度5弱」の地点も

地震の震度観測に誤りが出ている問題で、気象庁は21日、同庁が設置している全国627か所の震度計のうち、1都18県の26か所に問題があったとする調査結果を発表した。このうち21か所は今年度末までに別の場所に移すなどの対応を取り、5か所については震度発表を取りやめ。

## 気象庁設置627か所中

問題が見つかった26か所は、震度計が揺れやすい斜面に設置されているなど、設置場所や方法が適切でないために、震度を過大または過小に観測する傾向があった。

この中には、今年13日に八丈島沖を震源とする地震で唯一、震度5弱を観測した八丈町の観測点も含まれている。同町のそれ以外の震度計はすべて震度4を観測していた。

震度計を巡っては、昨年7月の岩手北部地震で、岩手県洋野町で当初震度6強が観測されたが、震度計が斜面に近く揺れやすい場所に設置されていたことが判明。同庁はその後、「震度不明」に訂正している。

同庁が震度計測の対象としている震度計は、都道府県や防災科学技術研究所(茨城県つくば市)などを合わせて計4200か所。今回の調査対象は、同庁が直接管理している分で、今年5月から調査していた。